

個人文書群の目録編成に関する研究 —小野増平文書と馬場重徳文書の比較を通して—

茨城県立
常陸大宮高等学校 恩田 怜

筑波大学
図書館情報メディア系 白井 哲哉

東京大学
附属図書館 大原 司

筑波大学
図書館情報メディア系 吉田 右子

目的

アーカイブズ学の編成論を適用した**個人文書群**の編成を通して、個人文書群に特徴的な編成に関する諸課題を明らかにすることで、個人文書群の整理論における編成理論の構築に資する

背景と先行研究

編成の主な理論

- ・国際標準記録史料記述一般原則(ISAD(G):General International Standard Archival Description)による組織を基盤にした編成
- ・シリーズ・システムによる機能を基盤にした編成
→編成の研究は、個人文書群において少数

対象と方法

- ・小野増平文書、馬場重徳文書
→**階層構造**を前提に**経歴(役職)**によるシリーズ設定を適用
→文書群の構造に適合的な編成の基準を検討する

結論

小野増平文書 → 新聞社の**役職(NY支局長、編集局長など)**を適用

組織によって活動が規定される場合

→ISAD(G)による構造把握

→**役職(経歴)**による編成可能

馬場重徳文書カード群→ 研究テーマ(多言語用語辞典編纂など)の**一貫性**を投影

組織を超えて**活動**が継続する場合

→シリーズ・システムによる構造把握

→**活動を基準**にした編成が行われるべき

個人文書群の構造

→**組織(役職)性+活動の連続性**

小野増平(1947-2011)文書

概要

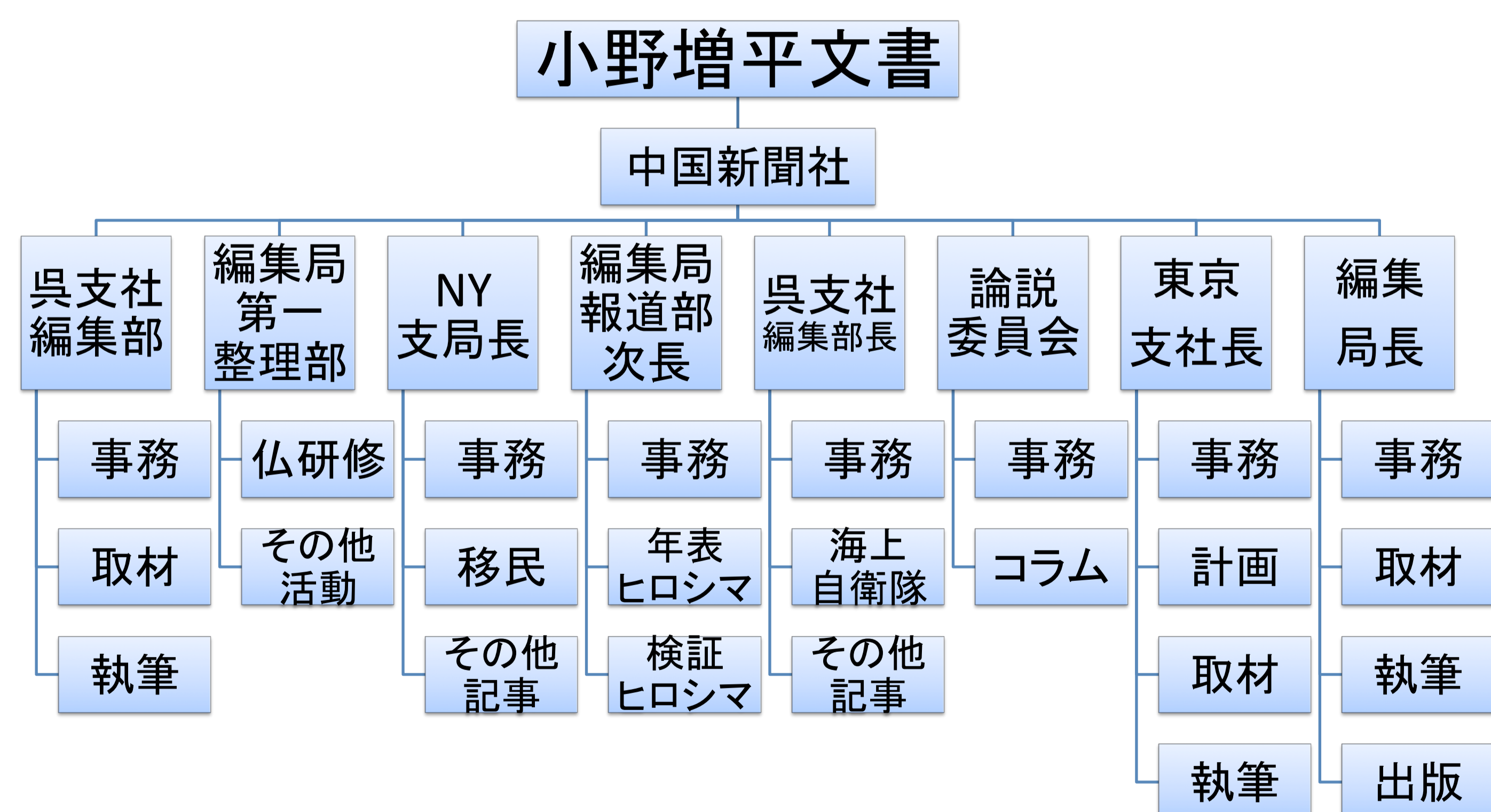
1970年中国新聞社入社後、編集局報道部、呉支社編集部長、編集局長。記事執筆関係の計1,296点の文書群。

『小野増平関係文書目録』(2015)で8つに**形態別**編成。

分類	点数	分類	点数
書類	560	電磁文書等	261
ノート・メモ等	90	写真	131
スクラップ	62	書籍	106
書簡	61	雑(物品等)	27

→**文書群の構造**を反映していない

経歴による再編成



経歴から**10の部局+役職名**をシリーズとして設定
→所属組織や役職に業務内容が規定

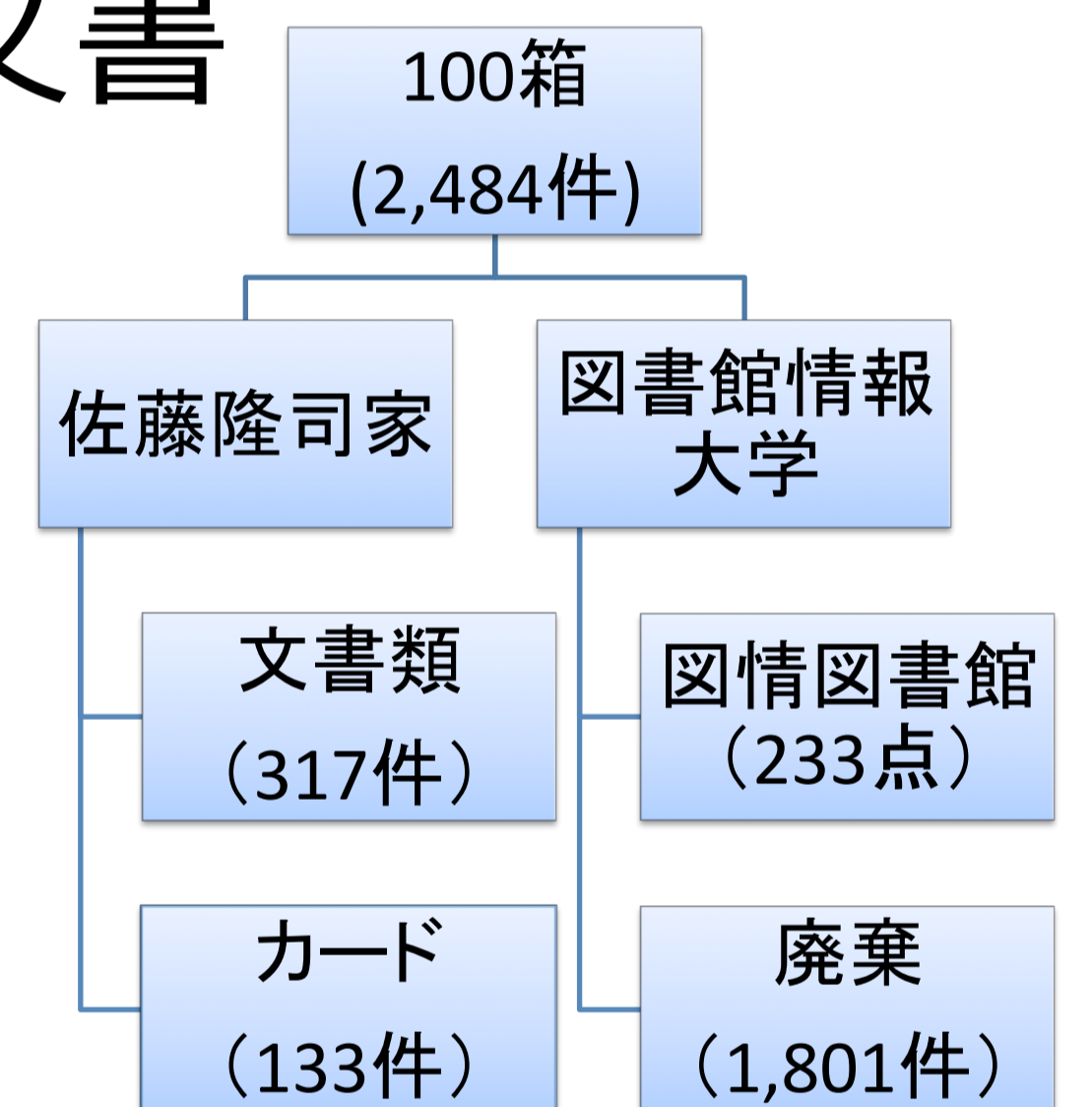
連載及び記者活動をサブ・シリーズとして設定

→業務過程で文書群が生成・蓄積するため
文書群の**生成・蓄積過程の秩序**を反映した編成

馬場重徳(1909-1993) 文書

概要

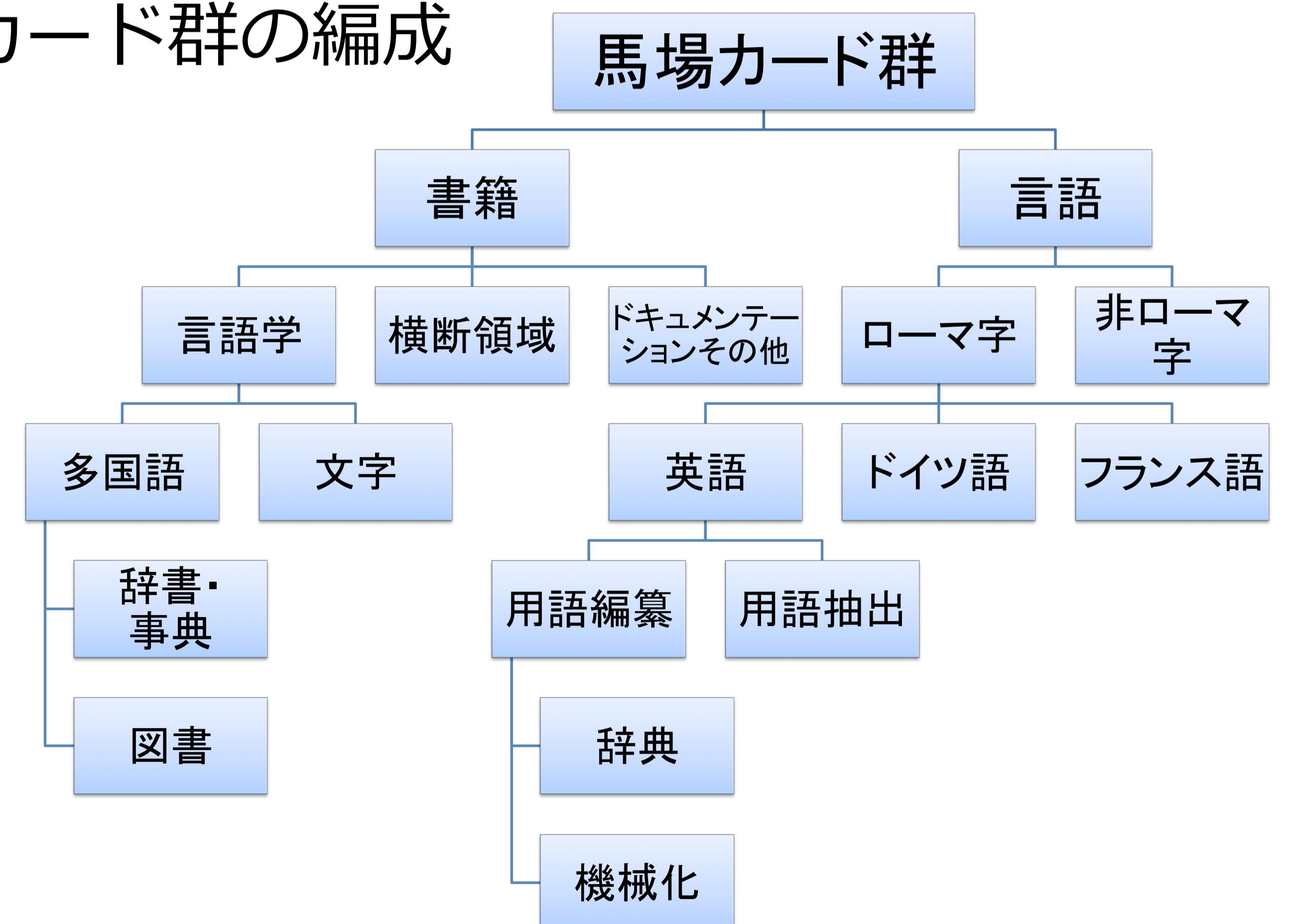
1934年古河電工に入社。退社後図書館行政に関わり、1965年図書館短期大学教授。研究関係の計2,484件の文書群。



133箱分の既成の目録カード

→**研究の基礎資料**で生涯に渡って生成・修正

カード群の編成



カードの内容から「書籍」と「言語」に分かれる

→「言語」は**各言語**(見出し語)に分かれる

→各言語に「**用語編纂**」(多言語訳用語カード)あり

→昭和20年~平成5年まで続けてきた研究

⇒**研究テーマの一貫性**を投影させた編成